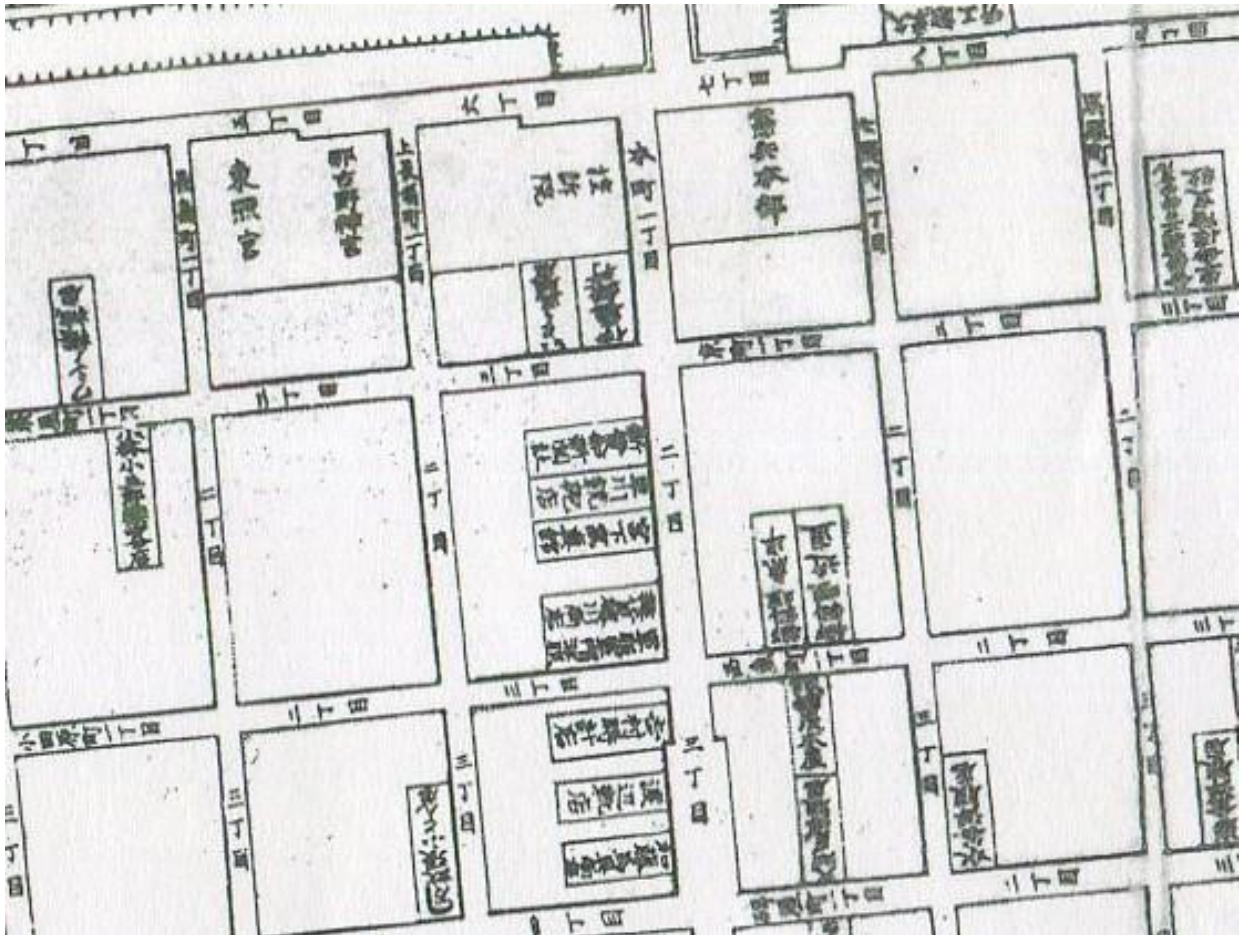


幕末明治の写真師列伝 第三百三十七回 宮下欽 その五十五

名古屋城正門を出て、三の丸の名古屋官庁街の一角を南に抜けたところに外堀があり、そこに架かった本町橋を起点として、大須観音のある大須まで南下する道が本町通り（後の御幸本町通り）で、この道は江戸時代からの名古屋のメインストリートであった。宮下写真館はこの本町通り沿い、西側にあった。（名古屋市本町二丁目）



本町通りは名古屋城の正門を出たところを起点として、広小路を経て、大須まで南へ延びる大通りで、その両側には明治になって憲兵本部・分隊（後の愛知県警本部）、愛知県の産業貿易会館などの官庁街になっており、「早川銃砲店」があるのも、憲兵本部・分隊の近くというのもその理由の一つと思われる。また、宮下写真館も名古屋城内の鎮台兵をお得意にもしていたことであろう。名古屋城は、明治4年（1871）東京鎮台第三分衛が設置されたのが始まりで、これが明治6年（1873）に名古屋鎮台と改められ、翌明治7年（1874）には歩兵第六連隊が創設された。鎮台は国内の不平武士たちの騒乱、反乱の鎮圧を目的として創設され、西南戦争に出動したが、明治21年（1888）に鎮台は廃止されて、第三師団となった。日清戦争、日露戦争へ赴いた兵士たちも宮下写真館でその姿を撮影したことであろう。もう一つ、地図をよく見ると、すぐ近くに那古屋神宮、東照宮があることに気づく、宮下写真館ではここで行われた結婚式、七五三などの人々も撮影したことであろう。

（森重和雄）